

# 公表 事業所における自己評価結果

事業所名 **りはくる**

公表日 **令和7年2月28日**

回収率 **100%**

	チェック項目	はい	いいえ	工夫している点	課題や改善すべき点
環境・体制整備	1 利用定員が発達支援室等のスペースとの関係で適切であるか。	6	0		
	2 利用定員やこどもの状態等に対して、職員の配置数は適切であるか。	6	0		
	3 生活空間は、こどもにわかりやすく構造化された環境になっているか。また、事業所の設備等は、障害の特性に応じ、バリアフリー化や情報伝達等、環境上の配慮が適切になされているか。	6	0	お子さんが取り組みやすい環境になるように整えている。	
	4 生活空間は、清潔で、心地よく過ごせる環境になっているか。また、こども達の活動に合わせた空間となっているか。	6	0	毎日、清掃と消毒をおこなっている。	
	5 必要に応じて、こどもが個別の部屋や場所を使用することが認められる環境になっているか。	6	0		
業務改善	6 業務改善を進めるためのPDCAサイクル(目標設定と振り返り)に、広く職員が参画しているか。	6	0	定期的話し合いを行っている。	
	7 保護者向け評価表により、保護者等の意向等を把握する機会を設けており、その内容を業務改善につなげているか。	6	0		
	8 職員の意見等を把握する機会を設けており、その内容を業務改善につなげているか。	6	0		
	9 第三者による外部評価を行い、評価結果を業務改善につなげているか。	3	3		外部評価は行っていないが、今後必要に応じて検討をしていく。
適切な支援の提供	10 職員の資質の向上を図るために、研修を受講する機会や法人内等で研修を開催する機会が確保されているか。	6	0	定期的にスタッフ主催での研修や勉強会を行っている。また、スタッフが気軽に研修を受講できる制度がある。	
	11 適切に支援プログラムが作成、公表されているか。	6	0		今後、HPに支援プログラムを公表していく。
	12 個々のこどもに対してアセスメントを適切に行い、こどもと保護者のニーズや課題を客観的に分析した上で、放課後等デイサービス計画を作成しているか。	6	0	支援会議を通して、デイや訪問での様子を伝え合って作成をしている。	
	13 放課後等デイサービス計画を作成する際には、児童発達支援管理責任者だけでなく、こどもの支援に関わる職員が共通理解の下で、こどもの最善の利益を考慮した検討が行われているか。	6	0		
	14 放課後等デイサービス計画が職員間に共有され、計画に沿った支援が行われているか。	6	0		
	15 こどもの適応行動の状況を、標準化されたツールを用いたフォーマルなアセスメントや、日々の行動観察なども含むインフォーマルなアセスメントを使用する等により確認しているか。	6	0		
	16 放課後等デイサービス計画には、放課後等デイサービスガイドラインの「放課後等デイサービスの提供すべき支援」の「本人支援」、「家族支援」、「移行支援」及び「地域支援・地域連携」のねらい及び支援内容も踏まえながら、こどもの支援に必要な項目が適切に設定され、その上で、具体的な支援内容が設定されているか。	6	0		
	17 活動プログラムの立案をチームで行っているか。	6	0	デイに入る支援員で、活動前やデイ会議の際に活動内容について話し合う時間を設けている。	
	18 活動プログラムが固定化しないよう工夫しているか。	6	0		
	19 こどもの状況に応じて、個別活動と集団活動を適宜組み合わせ放課後等デイサービス計画を作成し、支援が行われているか。	6	0		
	20 支援開始前には職員間で必ず打合せを行い、その日行われる支援の内容や役割分担について確認し、チームで連携して支援を行っているか。	6	0	朝礼で情報の共有をしている。	
	21 支援終了後には、職員間で必ず打合せを行い、その日行われた支援の振り返りを行い、気付いた点等を共有しているか。	6	0		
	22 日々の支援に関して記録をとることを徹底し、支援の検証・改善につなげているか。	6	0		
	23 定期的にモニタリングを行い、放課後等デイサービス計画の見直しの必要性を判断し、適切な見直しを行っているか。	6	0		
	24 放課後等デイサービスガイドラインの「4つの基本活動」を複数組み合わせ支援を行っているか。	6	0		
25 こどもが自己選択できるような支援の工夫がされている等、自己決定を育てるための支援を行っているか。	6	0	お子さんのレベルに応じて、2択にしたり、たくさんの中から選ぶ方式にしたり、自由度を高くするなど、考える機会や選択する機会を設けるようにしている。		

関係機関や保護者との連携	26	障害児相談支援事業所のサービス担当者会議や関係機関との会議に、そのこどもの状況をよく理解した者が参画しているか。	6	0		
	27	地域の保健、医療(主治医や協力医療機関等)、障害福祉、保育、教育等の関係機関と連携して支援を行う体制を整えているか。	6	0		
	28	学校との情報共有(年間計画・行事予定等の交換、こどもの下校時刻の確認等)、連絡調整(送迎時の対応、トラブル発生時の連絡)を適切に行っているか。	6	0		
	29	就学前に利用していた保育所や幼稚園、認定こども園、児童発達支援事業所等との間で情報共有と相互理解に努めているか。	6	0		
	30	学校を卒業し、放課後等デイサービスから障害福祉サービス事業所等へ移行する場合、それまでの支援内容等の情報を提供する等しているか。	6	0	相談支援専門員さんと情報を共有している。	
	31	地域の児童発達支援センターとの連携を図り、必要等に応じてスーパーバイズや助言や研修を受ける機会を設けているか。	5	1		ここいるの児童発達支援センターと連携を深めていく。
	32	放課後児童クラブや児童館との交流や、地域の他のこどもと活動する機会があるか。	1	5	ここいるとりはく間で交流がある。	今後必要に応じて、交流などを検討していく。
	33	(自立支援)協議会等へ積極的に参加しているか。	4	2	こども部会に参加をしている。	こども部会で話し合った内容をスタッフにも周知をしていく。
	34	日頃からこどもの状況を保護者と伝え合い、こどもの発達の状況や課題について共通理解を持っているか。	6	0	送迎時や記録など、保護者やその子の状態や様子、状況を観察したり、お話を聞いたりしている。	
	35	家族の対応力の向上を図る観点から、家族に対して家族支援プログラム(ペアレント・トレーニング等)や家族等の参加できる研修の機会や情報提供等を行っているか。	4	2		今後、必要に応じて実施をしていく。
保護者への説明等	36	運営規程、支援プログラム、利用者負担等について丁寧な説明を行っているか。	6	0	契約時に説明を行っている。	
	37	放課後等デイサービス提供を作成する際には、こどもや保護者の意思の尊重、こどもの最善の利益の優先考慮の観点を踏まえて、こどもや家族の意向を確認する機会を設けているか。	6	0		
	38	「放課後等デイサービス計画」を示しながら支援内容の説明を行い、保護者から放課後等デイサービス計画の同意を得ているか。	6	0		
	39	家族等からの子育ての悩み等に対する相談に適切に応じ、面談や必要な助言と支援を行っているか。	6	0		
	40	父母の会の活動を支援することや、保護者会等を開催する等により、保護者同士で交流する機会を設ける等の支援をしているか。また、きょうだい同士で交流する機会を設ける等の支援をしているか。	1	5		今後必要に応じて検討をしていく。
	41	こどもや保護者からの苦情について、対応の体制を整備するとともに、こどもや保護者に周知し、苦情があった場合に迅速かつ適切に対応しているか。	6	0		
	42	定期的に通信等を発行することや、HPやSNS等を活用することにより、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報をこどもや保護者に対して発信しているか。	6	0	HPを定期的に更新している。	
	43	個人情報の取扱いに十分留意しているか。	6	0		
	44	障害のあるこどもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮をしているか。	6	0		必要に応じて、メモを渡したり、通訳さんを検討してもらったりしている。
	45	事業所の行事に地域住民を招待する等、地域に開かれた事業運営を図っているか。	4	2		
非常時等の対応	46	事故防止マニュアル、緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアル等を策定し、職員や家族等に周知するとともに、発生を想定した訓練を実施しているか。	6	0		
	47	業務継続計画(BCP)を策定するとともに、非常災害の発生に備え、定期的に避難、救出その他必要な訓練を行っているか。	6	0		
	48	事前に、服薬や予防接種、てんかん発作等のこどもの状況を確認しているか。	6	0		
	49	食物アレルギーのあるこどもについて、医師の指示書に基づく対応がされているか。	6	0		
	50	安全計画を作成し、安全管理に必要な研修や訓練、その他必要な措置を講じる等、安全管理が十分された中で支援が行われているか。	6	0		
	51	こどもの安全確保に関して、家族等との連携が図られるよう、安全計画に基づく取組内容について、家族等へ周知しているか。	6	0		
	52	ヒヤリハットを事業所内で共有し、再発防止に向けた方策について検討をしているか。	6	0		
	53	虐待を防止するため、職員の研修機会を確保する等、適切な対応をしているか。	6	0		
	54	どのような場合にやむを得ず身体拘束を行うかについて、組織的に決定し、こどもや保護者に事前に十分に説明し理解を得た上で、放課後等デイサービス計画に記載しているか。	5	1		対象となる利用児はいないが、身体拘束の仕組みや制度をスタッフに周知をしていく。

# 公表 事業所における自己評価総括表

○事業所名	りはくる		
○保護者等評価実施期間	令和6年10月23日		～ 令和6年12月31日
○保護者等評価有効回答数	(対象者数)	32	(回答者数) 27
○従業者評価実施期間	令和6年11月1日		～ 令和6年12月31日
○従業者評価有効回答数	(対象者数)	6	(回答者数) 6
○事業者向け自己評価表作成日	令和7年2月28日		

## ○分析結果

	事業所の強み(※)だと思われること ※より強化・充実を図ることが期待されること	工夫していることや意識的に行っている取組等	さらに充実を図るための取組等
1	生活空間が、子どもにわかりやすく構造化された環境になっている。また、事業所の設備等は、器具合の特性に応じ、バリアフリー化や情報伝達等、環境上の配慮が適切になされている。	お子さんが活動などに取り組みやすい環境になるように整えている。	一人一人や集団でのお子さんの特性を把握、評価し、それらに合わせた環境調整を整えていく。
2	個々の子どもに対してアセスメントを適切に行い、子どもと保護者のニーズや課題を客観的に分析した上で、放課後等デイサービス計画を作成している。	支援会議を通じて、デイや訪問での様子を伝え合って作成をしている。	引き続き、定期的な支援会議などを開催し、お子さんの評価や見立てをスタッフ間で共有をしながら、スタッフ全員が同じ見通しで支援ができるように、計画を作成していく。
3	活動プログラムの立案をチームで行っている。	デイに入る支援員で、活動前やデイ会議の際に活動内容について話し合う時間を設けている。	プログラムが固定化されないように、常にチームの中で意見を出し合いながら、活動を検討していく。

	事業所の弱み(※)だと思われること ※事業所の課題や改善が必要だと思われること	事業所として考えている課題の要因等	改善に向けて必要な取組や工夫が必要な点等
1	放課後児童クラブや児童館との交流、地域の他の子供と活動する機会が少ない。	同じ法人内の事業所(ここいる)では交流があるが、児童クラブや児童館などの施設との交流は無かった。	今後必要に応じて、交流の機会を検討していく。
2	保護者同士で交流する機会を設ける等の支援が少ない。また、きょうだい同士で交流する機会を設ける等の支援が少ない。	今年度は親子の会の勉強会講師をスタッフが行ったが、保護者同士の交流をする機会は少なかった。	今後、必要な要望に応じてスタッフ間で検討をしていく。
3	自立支援協議会(子ども部会)等に管理者が出席をしているが、スタッフに周知がされにくい。	子ども部会のフィードバックをする機会が少なかった。	子ども部会で話し合った内容を文章にまとめて、スタッフと共有できるようにしていく。